

|                     |   |                |     |            |         |
|---------------------|---|----------------|-----|------------|---------|
| 都道府県・<br>指定都市番号     | 55  | 都道府県・<br>指定都市名 | 新潟市 | 研究課題番号・校種名 | 2(4)小学校 |
|                     |   |                |     | 領域名        | E S D   |
| 研究課題                | <b>学校全体で取り組む研究課題</b><br>(4) E S Dを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究  |                |     |            |         |
| ふりがな<br>学校名(児童・生徒数) | にいがたしりつにいがたしょうがっこう<br>新潟市立新潟小学校(525人)   |                |     |            |         |
| 所在地(電話番号)           | 新潟市中央区東大畑通1番町679番地 (025-228-3059)   |                |     |            |         |
| 研究内容等掲載ウェブサイト URL   | <a href="http://www.niigata.city-niigata.ed.jp/">http://www.niigata.city-niigata.ed.jp/</a>   |                |     |            |         |
| 研究のキーワード            | ・生活科、総合的な学習の時間を核とした教育課程編成 ・地域教育プログラム<br>・SDGsを取り入れた単元プラン ・資質・能力の具体化   |                |     |            |         |
| 研究結果のポイント           | ○E S Dの視点で目指す子どもの姿を具体的に設定し、その姿に迫るための手立て(①課題設定の手立て、②自ら考え協働する子どもの姿を促す手立て)の有効性を、授業研究を通して検証した。<br>○E S Dの視点で教育課程編成を行い、「地域」に焦点を当てた内容で生活科・総合的な学習の時間の単元でSDGsとの関連を図った単元プランを作成し、実践した。<br>○生活科・総合的な学習の時間での実践を、来年度、各教科へつなげ発展させていく。 |                |     |            |         |

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

自ら考え 協働する子ども

### (2) 研究主題設定の理由

#### ①これまでの研究から

昨年度までの5年間、「主体的に聴き、自分の考えを深め、広げていく子どもの育成」を目指し、「聴く」ことに注目した授業改善と、未来社会を切り拓く力を育成する教育課程の編成を進めてきた。友達の考えを大切に、比較検討しながら自分の考えを再構築・深化させる学習を継続することで、子どもは社会の中で活用される資質・能力である論理的思考力を高めたり、折り合いをつける力を身に付けたりすることができた。これは、子どもたち一人一人が自ら考え未来社会において地域社会の一員として協働して活躍するために必要な資質・能力につながるものである。

#### ②社会の情勢から

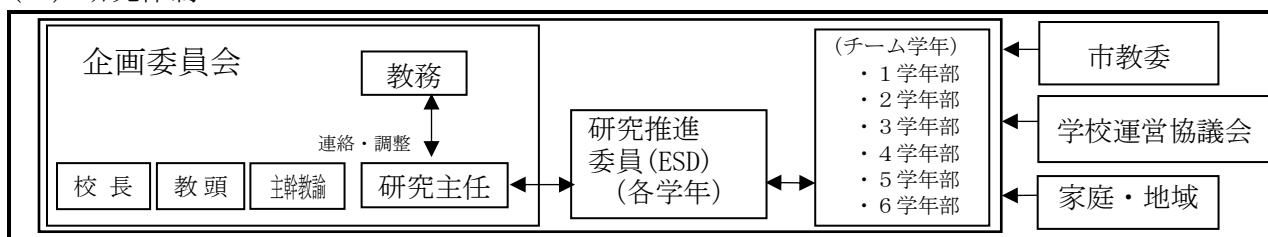
グローバル化の進展や人工知能の飛躍的な進化など、社会の加速的な変化から、今年度より施行される学習指導要領には、次のように述べられている。

これからの学校には、一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

これを受け、昨年度、当校の教育目標について、児童の実態、保護者、地域、教職員の願いを基に見直しを図った。そして、児童に求める資質・能力を「挑む力」「やり抜く力」「認め合う心」「支え合う心」等と定め、新教育目標「たくましく 美しく」を掲げ、新教育課程「新小プラン2020(以下新小プラン)」を編成した。これはE S Dで重視する能力・態度の中の「コミュニケーション力」「他者と協力する力」「つながりを尊重する態度」「進んで参加する態度」等に合致すると考える。そこで、これまで目指してきた「持続可能な社会の担い手の育成」をさらに深化させ、直接的に持続可能な社会の創り手を育む教育である「E S D」の枠組みから当校の教育課程を見直し、編成していく必要があると考えた。

以上のことを踏まえて、当校の研究主題を「自ら考え 協働する子ども」とした。

### (3) 研究体制



### (4) 1年間の主な取組

|       |  |
|-------|--|
| 令和2年度 | <p>4月 研究全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の研究の方向性についての共通理解</li> <li>・各学年でESDの視点をどのように取り入れるかについての検討</li> </ul> <p>5月 学年経営戦略会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsを取り入れた生活科・総合的な学習の時間の単元プラン作り</li> <li>・ESDの視点での教育課程の見直し</li> </ul> <p>8月 学年経営戦略会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究の指導案検討</li> <li>・単元や授業で目指す子どもの姿の具体化</li> </ul> <p>研究全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究発表会に向けての共通理解</li> </ul> <p>9月～11月</p> <p>生活科・総合的な学習の時間の授業研究<br/>(指導案検討, 他学級での事前授業, 授業協議会 等)</p> <p>オンライン研究発表会に向けての実践, 準備<br/>(指導案検討, 他学級での事前授業, 職員のzoom研修 等)</p> <p>11月 オンライン研究発表会 (全体発表, 授業公開, 協議会, ご指導)</p> <p>12月 学年経営戦略会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践の振り返り</li> </ul> <p>3月 研究全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の成果と課題についての共有</li> <li>・来年度の方向性についての協議</li> </ul> <p>研究のまとめ (冊子) 作成, 配布</p> |
|-------|--|

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### ①育成したい資質・能力の具体化

新小プランで育成したい資質・能力(「挑む力」「やり抜く力」「認め合う心」「支え合う心」と、「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」とを結び付け、単元で育成したい資質・能力を設定し、授業研究を基に、子どもの姿の具体化を図る。

#### ②内容の重点化を図った教育課程編成と単元づくり

これまでの教育活動を、ESDの視点で捉え直すことにより、それぞれの教育活動を教科横断的に結び付け、一層の充実を図る。ESDは多岐にわたるが、当校の実態や育成したい資質・能力を踏まえて、核となる内容を「地域」「国際理解」「防災」「人権」の4つとし、SDGsと結び付けて単元作りを行う。

### (2) 具体的な研究活動

#### ①育成したい資質・能力の具体化

・新小プランで育成したい4つの資質・能力と、ESDの視点で重視する7つの能力・態度とを結び付けて今年度の研究で目指す姿の具体例を作成した。

### <今年度の研究で目指す姿の具体例>

| 新小プラン        | E S Dの視点         | 具体例（これを例とし単元プランや指導計画に位置付ける）                          |
|--------------|------------------|--|
| 挑む力<br>やり抜く力 | ①批判的に考える力        | ・他者の意見をよく検討，理解して取り入れる。<br>・積極的，発展的によりよい解決策を考える。      |
| 挑む力          | ②未来像を予測して計画を立てる力 | ・見通しや目的意識をもって計画を立てる。<br>・他者がどのように受け取るかを想像しながら計画を立てる。 |
| 認め合う心        | ③多面的・総合的に考える力    | ・様々なものごとを関連付けて考える。<br>・人，もの，こと，社会，自然などとのつながりを理解する。   |
| 認め合う心        | ④コミュニケーションを行う力   | ・自分の気持ちや考えをまとめて伝える。<br>・自分の考えに他者の意見を取り入れる。           |
| 支え合う心        | ⑤他者と協力する態度       | ・相手の立場を考えて行動する。<br>・仲間を励ましながらチームで活動する。               |
| 認め合う心        | ⑥つながりを尊重する態度     | ・自分が様々なものごととつながっていることに関心をもつ。<br>・様々なつながりを尊重し大切にすること。 |
| 挑む力          | ⑦進んで参加する態度       | ・自分の言動に責任をもち，役割を理解する。<br>・ものごとに主体的に参加しようとする。         |

・これを受けて，単元レベル，授業レベルでの目指す姿を設定した。

### <単元レベルでの目指す姿>（5年「地域のお宝再発見」）

| 新小プラン        | E S Dの視点      | 単元で目指す姿  |
|--------------|---------------|--|
| 挑む力<br>やり抜く力 | ①批判的に考える力     | ・ゲストティーチャーや友達の意見を取り入れ，よりよいPR動画にするにはどうしたらよいかを考え，伝える宝やPR動画を修正する。 |
| 認め合う心        | ③多面的・総合的に考える力 | ・地域の人やもの，自分たちの思いなどを関連付けながら，地域の宝を伝える内容や方法を考える。                  |
| 支え合う心        | ⑤他者と協力する態度    | ・地域の活性化のために，PR動画で地域の宝を伝える活動に進んで取り組み，参加しようとする。                  |

### <授業レベルでの目指す姿>

| 新小プラン        | E S Dの視点   | 本時で目指す姿   |
|--------------|------------|---|
| 挑む力<br>やり抜く力 | ① 批判的に考える力 | 「伝わる撮影ポイント」を視点にして，撮影した動画を見直したり，友達と話し合ったりしながら撮影の改善点を考える姿 |

・単元レベル，授業レベルでの目指す姿を，研究主題「自ら考え 協働する子ども」の姿とし，全学年で授業研究を行った。今年度の授業研究は，生活科，総合的な学習の時間に絞り，E S Dの内容の「地域」に焦点を当てた「地域教育プログラム」の単元で実施した。

・授業研究では，設定した目指す姿に迫るために，次の2つの手立てを構想した。

#### ○課題設定の手立て

- ・ズレ（友達，既習，予想）を生むような問題提示
- ・多様な考えを一つに集約する必要がある課題の設定
- ・子どもの「解決したい」という思いを高める状況設定

#### ○自ら考え協働する姿を促す手立て

- ・考え，話し合う視点を明確にする
- ・思考（比較・関連付けなど）を促す資料や教材提示
- ・思考する内容を整理・限定・方向付ける

・授業研究を通して明らかになった成果と課題を，学力向上推進だよりにまとめ，全職員で共通理解を図り，次の授業研究につなげた。

## ②内容の重点化を図った教育課程編成と単元づくり

- ・単元や題材の内容によって、関連するSDGsを選択して取り上げ、単元づくりを行った。

<単元づくりの例>

|  |                  |                      |
|--|------------------|----------------------|
| 「地域」 2年 生活科「町のすてき 大はっ見」<br>自分たちが住む町を探検し、調べる活動を通して、町の特徴やよさ、働く人々の様子に気付き、自分たちの町に対して親しみや愛着をもつことができる。 | 11 住み続けられるまちづくりを | 17 パートナーシップで目標を達成しよう |
| 「地域」 6年 総合的な学習の時間「大好き♥新潟」<br>地域の現状に目を向け、課題を見だし、方策を考える活動を通して、地域の魅力に気付き、活性化のために進んで活動しようとする。        | 16 平和と公正をすべての人に  | 17 パートナーシップで目標を達成しよう |
| 「防災」 4年 総合的な学習の時間「防災探検隊」<br>災害から身を守るためにはどうしたらよいかを考えたり調べたりする活動を通して、防災への意識を高める。                    | 11 住み続けられるまちづくりを | 17 パートナーシップで目標を達成しよう |

## 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 目指す子どもの姿の具体化  
当校が求める資質・能力と、ESDの視点で重視する能力・態度とを結び付けて目指す子どもの姿を設定し、授業研究を通して検証することができた。
- 目指す姿に迫る手立ての工夫  
授業研究では、課題設定の手立て、自ら考え協働する姿を促す手立てを構想し、手立ての有効性について協議し共有することができた。
- ESDの視点での単元プラン作成  
特に「地域」に焦点を当てた内容で、生活科・総合的な学習の時間の単元を中心とし、SDGsとの関連を図った単元プランを作成し実践することができた。
- 地域の学習についての意識の向上  
新潟市生活学習意識調査「地域のことに触れたり、調べたりする学習は好き」の項目で、「当てはまる」と答えた児童が、R1年度の58%からR2年度は63%となった。「地域」に焦点を当て、ESDの視点から目指す姿を明確に設定して取り組んだ成果である。
- 生活科・総合的な学習の時間から各教科への発展  
今年度、全職員で生活科・総合的な学習の時間での単元づくり（単元の見直し）や授業研究に取り組んできた。この成果と課題を、各教科へどのようにつなげていくかを考えていく必要がある。
- ESDの視点での教育課程編成  
今年度は、内容として「地域」に関わる単元を中心に研究を進めてきた。当校で重点を置く「国際理解」「防災」「人権」の内容についても実践を重ね、ESDの視点で年間指導計画を整理していく。

## 4 今後の取組

- (1) 各教科でのESDの実践  
生活科・総合的な学習の時間での成果と課題を生かして、各教科でESDの実践を行う。各教科等のねらいとESDの視点から育てたい資質・能力から目指す姿を設定し、目指す姿に迫るための手立ての有効性について、授業研究を通して検証する。
- (2) ESDカレンダーの作成  
年間を通してESD（「地域」「国際理解」「防災」「人権」の内容）をどのように進めていくかを明らかにし、生活科・総合的な学習の時間を核として、関連する単元の内容を結び付けたESDカレンダーを作成する。